

18:14 そのとき、あのライシュの地を偵察に行った五人の者は、その身内の者たちに告げて言った。「これらの建物の中にエポデやテラフィム、彫像や鑄像があるのを知っているか。今あなたがたは何をなすべきかを知りなさい。」

15 そこで、彼らは、そちらのほうに行き、あのレビ人の若者の家ミカの家に来て、彼の安否を尋ねた。

16 武具を身に着けた六百人のダンの人々は、門の入口のところに立っていた。

17 あの地を偵察に行った五人の者は上って行き、そこに入り、彫像とエポデとテラフィムと鑄像を取った。祭司は武具を身に着けた六百人の者と、門の入口のところに立っていた。

18 五人の者がミカの家に入り、彫像とエポデとテラフィムと鑄像を取った。そのとき祭司は彼らに言った。「あなたがたは何をしているのか。」

19 彼らは祭司に言った。「黙っててください。あなたの手を口に当てて、私たちといっしょに来て、私たちのために父となり、また祭司となってください。あなたはひとりの家の祭司になると、イスラエルで部族または氏族の祭司になると、どちらがよいですか。」

20 祭司の心はずんだ。彼はエポデとテラフィムと彫像を取り、この人々の中に入って行った。

21 そこで、彼らは子どもや家畜や貴重品を先にして引き返して行った。

22 彼らがミカの家からかなり離れると、ミカは家の近くの家にいた人々を集め、ダ

ン族に追いついた。

23 彼らがダン族に呼びかけたとき、彼らは振り向いて、ミカに言った。「あなたは、どうしたのだ。人を集めたりして。」

24 すると、ミカは言った。「あなたがたは私の造った神々と、それに祭司とを取って行った。私のところには何が残っていますか。私に向かって『どうしたのだ』と言うのは、いったい何事です。」

25 そこで、ダン族はミカに言った。「あなたの声が私たちの中で聞こえないようにせよ。でなければ、気の荒い連中があなたがたに撃ちかかろう。あなたは、自分のいのちも、家族のいのちも失おう。」

26 こうして、ダン族は去って行った。ミカは、彼らが自分よりも強いのを見てとり、向きを変えて、自分の家に帰った。

27 彼らは、ミカが造ったものと、ミカの祭司とを取って、ライシュに行き、平穏で安心して暮らしている民を襲い、剣の刃で彼らを打ち、火でその町を焼いた。

28 その町はシドンから遠く離れており、そのうえ、だれとも交渉がなかったので、救い出す者がいなかった。その町はベテ・レホブの近くの谷にあった。彼らは町を建てて、そこに住んだ。

29 そして、彼らはイスラエルに生まれた自分たちの先祖ダンの名にちなんで、その町にダンという名をつけた。その町もとの名はライシュであった。

30 さて、ダン族は自分たちのために彫像を立てた。モーゼの子ゲルショムの子ヨナタンとその子孫が、国の捕囚の日まで、ダン部族の祭司であった。

31 こうして、神の宮がシロにあった間中、

彼らはミカの造った彫像を自分たちのために立てた。

以前にミカが雇った二セ祭司によって良い予言してもらった偵察の者たちは、ミカの家から偶像を奪い、その二セ祭司を買収して連れて帰りました。ミカはそれに気づき後を追いますが、かなわないと悟り諦めました。それ以降ダン族は偶像と関わり続けました。ミカは家の祝福のためにとはいえ神ならぬものを拝みましたが、結局それを失ってしまいました。神をないがしろにして得た幸いや安心はこのようなものです。

ダン族もまた主に従わないで将来と得ようとしたが、その結果、敵であるペリシテ人ではなく、「平穏で安心して暮らしている民」を不幸に陥れたのです。部族の名は黙示録の祝福かあは消されてしまいました。

祝福の源は主であることを明確にして、主から揺るぎない祝福をいただけるように、従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

